○議長（中西峰雄君）順番３、１番　岡君。

〔１番（岡　弘悟君）登壇〕

○１番（岡　弘悟君）早速ではございますが一般質問させていただきます。

大項目が二つあるんですけども、まず１番から。

橋本市における人口減少が与える影響と対策についてです。橋本市の人口は、この４年間で約2,000人減少しています。年間約500人もの人口を失っている現状でありますが、人口減少が本市及び地域経済に与える影響を今一度再確認し、ピンポイントに人口減少問題をとらえた施策を実施すべきではないでしょうか。もちろん、企業誘致も人口減少に歯どめをかける施策であると認識していますが、誘致した企業と関係のない人、つまり就職や仕事のつながりのない人に効果を期待するのは難しいと思われます。多くの市民が享受でき、橋本市が独自性を持った施策を考えていく時期に来ているのではないでしょうか。ひいては人口減少抑制が地域経済を活性化する大きな要因の一つになるのではないかと考え、以下、質問いたします。

①本市における人口減少で、他府県への流出と本市への流入の割合を教えてください。

②流出と流入の結果生まれた経済的な損失と、本市における財政的な損失を算出でき得る範囲で教えてください。

③人口の自然減（出生率と亡くなった人の数）ではなく、流出の問題は各自治体が独自の施策により食いとめるべき問題であると考えますが、現在、本市で行われている施策と効果を具体的に教えてください。

④行政が考えている「住みたくなるようなまち」のビジョンはどういったものなのか。現状の人口減少の割合を鑑みると、再検討すべきと考えますが、いかがでしょうか。

⑤多くの市民が享受でき、住むことで魅力、メリットを感じることのできる施策を、新たに考えなければならない時期に来ていると思います。橋本市地域経済の基盤となっている人の流出に焦点を置いた施策を実行すべきと思いますが、いかがでしょうか。

次、大項目の２番です。地域伝統産業を後世に伝えるために。

橋本市を紹介するときに、いくつかの伝統産業が紹介されますが、行政として今後これらの伝統産業、例えばへら竿、パイル織物などをどのように位置付け、後世に残すための施策を打ち出すことができるのか。伝統産業を商業としてとらえるのではなく、文化としての位置付けを明確に示し、後世に伝えるための手助けを行政としてやっていくべきと思いますが、いかがでしょうか。

以上２点です。答弁のほど、よろしくお願いいたします。

○議長（中西峰雄君）１番　岡君の一般質問に対する答弁を求めます。

企画部長。

〔企画部長（吉田長司君）登壇〕

○企画部長（吉田長司君）はじめに、議員おただしの、橋本市における人口減少が与える影響と対策についてお答えいたします。

他府県への人口流出と本市への人口流入の割合について、平成21年度の県外転出は県内転出を含め、いわゆる転出が1,864人、転入が1,665人、これによる人口流出入の増減は199人の減少となり、また、平成21年度総人口の

増減は６万8,602人から６万8,211人と、391人の減少となります。この結果、市全体の減少に対しての人口流出入による減少の割合は50.9％と、減少要因の半数を占めている状況でございます。

次に、人口流出入による経済的損失及び本市の財政的な損失について、まず、人口流出入が経済に与える影響には、移動する人口年齢が影響すると考えられます。例えば、生産年齢人口比率が減少し、高齢者比率が増大した場合、生産年齢世代への負担が増えたり、産業の担い手が不足したり、企業の売り上げの減少や購買力の低下などの影響が出てくると考えられます。本市財政への影響については、人口流出入によって人口が減少した場合に普通交付税への影響があり、また、市税減収の一つの要因にもなると考えられます。

３番目の、人口流出に対する本市独自施策については、合併後、企業誘致を促進し、市民が安心して働き、定住することのできる雇用の場の確保をめざして取り組んでいます。社会増加率と各指標から見た場合、「雇用機会の多さ」や「新設住宅着工戸数」など正の相関関係が厚生労働省「労働市場年報」のデータ等からも認められ、企業誘致の促進は人口流入のための有効な手段の一つであると考えられます。また、その効果については、進出協定締結済みで今後の操業予定の企業も含め、158名の雇用の創出が見込まれています。

４番目の、住みたくなるようなまちのビジョンとビジョンの再検討について、現在、本市が取り組んでいるさまざまな事務事業は、総合計画において、まちの将来像「時間ゆたかに流れ　くらし潤う創造都市　橋本」を掲げ、合併後の新たなまちづくりを進めています。総合計画については、平成20年度から平成29年度までの10カ年計画とし、今後は政策、施策、事務事業において成果分析等を行った上で、見直しの必要性についても検討していかなければならないと考えています。

最後に、多くの市民が享受でき、住むことで魅力、メリットを感じることのできる施策の検討や、橋本市の地域経済の基盤となっている、活力あるまちづくりに焦点を置いた施策の実行についてお答えします。

まず、前述の施策の検討でございますが、本市総合計画は市民参加のもと、十分な検討協議が重ねられ、多くの市民が行政サービス等を享受できるように策定された計画として、最上位計画に位置付けられています。

後述の施策の実行については、総合計画の基本目標でもある「活力ある産業を育成し、若者が定住できるまちづくり」「健やかで安心して暮らせるまちづくり」を着実に実行していくことが、人口流出に歯どめをかけ、人口流入につなげていくことができると考えています。そのためには、まず現在進行中の企業誘致を着実に促進させていくこと、そして、関連する事務事業を一つ一つ着実に実行することが重要であると考えます。

しかしながら、社会情勢は刻々と変化し、市民ニーズも多様化・複雑化しているため、議員ご提案の施策については、今後の見直しを行う中で検討してまいりたいと考えます。

以上でございます。

○議長（中西峰雄君） 経済部長。

〔経済部長（岡松克行君）登壇〕

○経済部長（岡松克行君） 岡議員おただしの、本市の地域伝統産業を後世に伝えるために、どのような手助けを行政として取り組むべきかについてお答えをいたします。

本市の伝統産業といたしまして、議員おただしのとおり「紀州へら竿」と「パイル織物」などがあります。

「紀州へら竿」につきましては、紀州製竿組合が県の補助事業である伝統工芸後継者育

成支援事業と、同じく県の緊急雇用創出事業臨時特例基金活用事業により、ハローワーク等を通じまして後継者を広く募集し、育成に努めており、本市も後継者育成に対し今後どのような支援が必要か、紀州製竿組合、橋本商工会議所等と一緒に協議検討し、国、県にも働きかけていきたいと考えています。

また、この紀州へら竿につきましては、「伝統的工芸品産業の振興に関する法律」に基づき、経済産業大臣の「伝統的工芸品」の指定を受けるべく、紀州製竿組合と一緒に模索しているところでございます。

続きまして、「パイル織物」についてでございますが、今、紀州繊維工業協同組合が中心となりまして、経済産業省の支援を受け、「高野口パイルブランド」の確立と育成をめざし、新商品の開発やＰＲ事業を有機的に組み合わせながら、上海、香港、東京での展示会を実施し、本市の特色あるパイル織・編物製品の技術及びクオリティーのポテンシャルの高さを国内及び海外に発信し、新たな販路開拓に取り組んでいます。本市もこの事業の支援を行っていますが、この事業は平成21年度から23年度までの３カ年事業となりますので、今後どのように振興を図っていくのか、紀州繊維工業協同組合、高野口町商工会、橋本商工会議所、県と協議検討を図りながら、国、県の効果的な支援策を模索してまいりたいと考えていますので、ご理解のほど、お願いいたします。

○議長（中西峰雄君） この際、午後１時まで休憩いたします。

（午前11時54分　休憩）

（午後１時00分　再開）

○議長（中西峰雄君） 休憩前に引き続き、会議を開きます。

一般質問を行います。順番３、１番　岡君の再質問から行いたいと思います。岡君、再質問ありますか。

１番　岡君。

○１番（岡　弘悟君） 答弁ありがとうございました。

まず、大項目の１番のほうからお聞きしていきたいと思います。これなんですけども、流出の分で199人減少。人口が減る割合の約50.9％の割合ということなんですけども、この流出の、例えばという話でご答弁いただいたんですけども、実際の流出されているのと流入されている年齢というのは、どのように把握されているんですか。例えば、30代が多いとか40代が多いとか、そういった形で把握されているのかどうか、その一点お聞きします。

○議長（中西峰雄君） 企画部長。

○企画部長（吉田長司君） 年齢はちょっと把握しておりません。月単位では把握してるんですけども、年齢の何歳から何歳まではというのは、これは統計的に出ます。出ますけども、ちょっと現在は把握してございません。

○議長（中西峰雄君） １番　岡君。

○１番（岡　弘悟君） 最初からあれなんですけども、これ、年齢的に把握してなかったら、例えば、全体になってしまって、１番からちょっとあれなんですけど、本市において何が足りないのかとか、どういった原因で流出されているのかというのをポイント的に探っていくのに、年齢層がわからなかったらその対策も立てにくいとは思うんですけども、その点についてはいかがですか。それともほかに何か理由があって、その年齢は確認されてないんでしょうか。

○議長（中西峰雄君） 企画部長。

○企画部長（吉田長司君） 統計的に出せますので、すぐ出せますけども、現在のところ、ちょっと手元に資料が持ってないということ

でございます。

大きく言いまして、橋本市の場合でしたら、学生まではいて、就職になったら外へ出ていく傾向と、それから、新しい北部のベッドタウンでございますけれども、老人だけ住まれるようになってから大都市で安いマンション、駅前のマンションなんか手に入るような状態になってきてる中で、逆に、堺のほうから出てこられた方が回帰現象というんですか、大阪のほうとか、北野田のマンションとか、そういうふうに帰られるというのが具体的にあるということで、ちょっとふわっとした話でございますけれども、そういうのが流出の主なものでございます。

○議長（中西峰雄君） １番　岡君。

○１番（岡　弘悟君） 僕が一番気になるのは、ちょっと順番には行かしてもらいたいんですけども、行政として、そのあいまいさが気になるんです。例えば、流入してもらうためにやっている施策というのが、あまりにもあいまい過ぎて見えてこないので、それが一番気になる点なんですけども、今の答弁を聞いておっても、ちょっとそれがあまりにもあいまい過ぎるというか、されてないところが少し気になるんですけども、続けて２番のほうに行かせてもらいます。

そしたら、経済的な損失と財政的な損失を算出してないということで認識してよろしいんでしょうか。

○議長（中西峰雄君） 企画部長。

○企画部長（吉田長司君） 最初の答弁で述べさせていただいたように、人口もそうでございますけれども、まちづくりというものの位置付けが長期総合計画の中でやってございます。その長期総合計画につきましては、当初、合併した18年度につきましては、合併の新市まちづくり計画というのがございました。それを発展的にしまして、新しい長期総合計画をつくったわけでございます。

ということで、その長期総合計画が一番の基本の市の指針でございます。その中で、４年、５年たつわけでございますけれども、その当時の中で、平成12年、それから17年の国勢調査を踏まえて、人口が減少するということも考慮した中で決定してございます。その中で、特に、自然に放っておけば人口フレームは６万5,500人になるのを、積極的に企業誘致とか子育てをやって６万7,000人まで食いとめるのやという長期総合計画になってございます。

そういうことで、その当時はそれに対して、それの経済効果とか、一つ一つの施策について人口がどうなっていくかという指標は設けてないのが現状でございます。

それで、現在もその長期総合計画に基づいて、いろんな施策を打っているわけでございますけれども、今風と言いましたらおかしいですけども、県の長期総合計画におきましても、また新しい長期総合計画におきましても、目標数値を掲げているところが多うございます。ということで、これから中期で一応５年ぐらいたったら見直していかんなんかなという考え方の中で、その分析も含めて、新しい見直し計画については、数値も入れ込まなければいけないところは入れ込んでいきたいというふうに考えてございますので、現在のところ、そういう形のちょっとふわっとしたというと言い方が悪いですけども、そういう計画で進んでおりますので、それの分析ができていないというのが現状でございます。

今言いましたように、人口も含めまして、世代だけじゃなしに場所も含めまして、やっぱりクロス集計というんですか、地域はどないなってるかということも含めまして、男女の差も含めましていろいろ検討しなければいけないということで考えてございますけども、

データはございますけども、そこの分析まではしていないというのが現状でございます。

以上でございます。

○議長（中西峰雄君）企画部長に申し上げます。１番　岡君の再質問は、経済的な損失と財政的な損失の算出はしていないんですねというただしでございますので、これに対して明確にご答弁願います。

企画部長。

○企画部長（吉田長司君）失礼しました。今のところ分析はしてございません。

○議長（中西峰雄君）１番　岡君。

○１番（岡　弘悟君）そこで、もう一点気になるのが、長期総合計画を５年たって見直すときに、細かな分析を年々やらずに、先ほど答弁でもありました、市民ニーズの多様化をどうやって調査できるのかなという疑問があるんです。実際そうですよね。企業が絶えず行うマーケティングと一緒で、行政も絶えずそのときそのときに、減少した理由とそのときに流入した結果、どういった経済効果、流出した結果、どういった経済効果があった、どういった理由があったかというのを、多様化するのであれば毎年毎年、次の見直しに向けてその都度まとめておかなければいけないとは思うんですけども、されてないというのであれば今後していただければ結構だと思うんですけども、ただ、この長期総合計画に関してなんですけども、それに沿ってやっていってるというのは、ただ人口減少を見通しての話になってきますよね。だからその中で、もちろん６万7,000人でとめるんやという、その趣旨に基づいてやってるんやというんですけど、その中身というのが、先ほどの話やったら僕はちょっと理解できないというのは、ある意味、やってないけども６万7,000人でとめる長期総合計画という形で答弁されてるんですけども、その中身というのは、例えば６万7,000人でとめる具体的な施策というのはどういったものがあるのか、何点か教えていただけますか。

○議長（中西峰雄君）企画部長。

○企画部長（吉田長司君）あまり個人的な話をしてはいけませんので、長期総合計画に基づいての人口をとめる、1,500人を何とか食いとめるというものにつきましては、活字で書いてございますのが、子育て支援、企業誘致、新たな産業の創出などということで書いてございます。

以上でございます。

○議長（中西峰雄君）１番　岡君。

○１番（岡　弘悟君）それはもちろんそうだと思うし、理解もしておるんです。ただ、それに基づいても、もちろん６万7,000人でとめるというのも大事やと思うんですけども、今の減少の率からいったら、これは恐らく６万7,000人、もちろん毎年毎年500人近く減っていってるという中で、例えば４年後2,000人引いて、次は６万5,000人という数字をたたき出してくるのは簡単だとは思うんですけども、それを６万7,000人にとどめるというような施策のうちの一つというのに、例えば、今言った子育て支援だとか企業誘致というものが、そこまでの有効性があるんであれば構わないんですけども、事実、実際は歯どめはかかってるんやけども、人口が500人近く減少しているというのは、実際事実、今後も起こってくることやと思うんです。それを、今この時点で人口が減ってるんやから仕方がないというようにあきらめてしまうのか、それとも、僕、自分が小さな会社を経営しているんですけども、行政も今後、流入してもらう住民の方というのを、ある意味、お客としての見方で行政を行う。それはお客さんと言うたら言葉悪いですけども、そうじゃなくて、何らかの施策によって、橋本市に住むと何か自分たちに

とってメリットがあるとか魅力があるというような特定に、ピンポイントにそこをついた施策というのは必要になってくるとは思うんです。全体の趣旨なんですけどもね。

そういった施策というのが必要になってくるんですけど、ただ、この長期総合計画で、一個一個の話はわかるんです。子育て支援とか、それはもちろんそうだなとは思うんですけども、それは全体の中でそれが一体化したときに人口減少を食いとめる一つの施策、まあ言えば、子育て支援というのは目的は子育て支援、企業誘致というのは雇用、もちろん全部分かれて、それがくっついたときに人口減少の抑制効果が生まれるという話はわかるんですけども、そうじゃなくて、人口流入をしてもらうためのピンポイントにねらった施策というのも、今後打ち出していかなあかんと思うんですけども、そういった具体的な施策というのは、行政の中でどういうふうに考えておられるのか、答弁のほど、よろしくお願いします。

○議長（中西峰雄君）企画部長。

○企画部長（吉田長司君）人口を食いとめるピンポイント的、特効薬的な施策があればということになろうかと思いますけども、それについては非常に難しいと考えます。この長期総合計画の中で、住みよいまちづくり、住んでよかったまちづくりをすることが、すべて人口を食いとめるのにもつながっていきます。それで、数値目標を挙げていないのが、ちょっとその辺が弱点かなというふうに考えますけれども、長期総合計画そのものが、活力あるまちづくりをするということ自体が、やっぱり魅力のあるまちということで、人口減少を食いとめることにつながっていくというふうに考えてございます。

それと、企業誘致は雇用だけじゃなしに、企業誘致、これはちょっとほかと違いまして、長期総合計画の中でもうたってございますけども、橋本市にしましては、旧の橋本市でございますけども、昭和45年から計画しまして50年から住宅、ベッドタウンということでずっと進んできた経緯がございます。そういうことで、15万人都市をめざしていくという考えの中で何十年ということで進んできました。

ただ、人口減少、平成17年の国勢調査で人口減少ということがきちっとうたわれた中で、これは住宅都市としてはやっていけない状況がある中で、橋本市の大転換として、遊休地について企業誘致に変えていって人口を増やしていこうという、これは橋本市の大きな施策でございますので、ほかのいろんな施策が書いてある中でも、人口を食いとめることも含めて、雇用の場を創出していくということも含めて、かなり大きな柱ということで認識していただきたいと。住宅都市をやめたわけではございませんけども、それから企業誘致にシフトしたんやということで、市の施策が変わっていったんやということをご理解願いたいというふうに考えてございます。

○議長（中西峰雄君）１番　岡君。

○１番（岡　弘悟君）それは理解してるんですけども、それでは、企業誘致によって生み出された雇用を、予定で158名の雇用が生み出されると。それは雇用だけであって、家族で来られたら人口も増えますし、もちろん経済的効果も大きいとは思うんですけども、じゃあ相反することで行政は、例えば、この数年間でどれほどの地元の企業が倒産し、どれほどの雇用が失われたかは把握されてるんですか。

○議長（中西峰雄君）経済部長。

○経済部長（岡松克行君）ただ今のご質問でございますけども、数字的な件につきましては、後ほど報告させていただきたいと思います。

○議長（中西峰雄君） １番　岡君。

○１番（岡　弘悟君） 目に見える増やす部分というのは、そういった形で数字で現れて、158名の雇用というのは非常に大きな数字やと思うんです。僕は何もそれを反対しているわけでもないし、企業誘致は大事な柱やと思うとるんです。ただ、先ほども言いましたけども、地元の経済的な損失とかを算出してなかったら、地元の経済が破綻した場合に、どれだけの雇用が失われてという算出をしてなかったら、158名増えたという数字は、それはただ単に片一方の数字で全体の数字じゃないじゃないですか。だから、そういったところを入れたら反対側も議論しないことには、本当の意味で、行政が人口を雇用の面に関しても増やしていくということにはならないと思うんですよ。

僕がいつも気になるのは、どうしても断片的な部分の数字はぱっと出るんやけども、じゃあその裏の部分の数字を足して引いた数字なんかと言われたときに、いや、それはそうじゃないですというような形が多いと思うんです。だから、本当に158名の雇用は大事やけど、例えば、今年、年間150名雇用が生まれましたと。でも、実際のところ市内の中の雇用はこれだけ失われて、実際の数字はこの数字です、というふうに計画を立てていかないと、実際、人口の減少というのはとまらない。本当の意味での人口減少の理由、これは自然減の話はしてないので、流出と流入の話をするんですけども、本当の意味で流出と流入がどのように起こっているのかというのは認識できないと思うんです。

だから、その部分に対して、今行政が欠けている部分の一つだとは思うんですけども、例えば、先ほども言いましたけども、本当に市民ニーズの多様化というのは変わると思います。流出している人も流入している人も、もしかしたら市民のニーズが橋本市側に偏れば、流入の数も増えるとは思うんですけども、実際のところ、今のところは流出が多いと。ということは、橋本市よりもほかに、経済的なのか施策的なのか地域的な環境なのかは、まだ実際、調べてないということなのでわからないですけども、それを認識しないことには、この流出は歯どめはきかないと思うんですけども、その辺を今後、断片的ではなくてもう片一方も含めて議論していただけるという余地はあるんでしょうか。

○議長（中西峰雄君） 企画部長。

○企画部長（吉田長司君） 前段の企業誘致と地場の従前からの商工業の関係でございますけれども、これは企業誘致をやったから商工業が衰退していくとかということではございません。これはリンクしてない。逆に、企業誘致で人がにぎわえば、もっと商業的なものも活性化するのではないかというふうにも考えるところもございます。

それと、人口減少につきましては、確かに言われるとおり、常にそればかりを考えてしておるわけではないので数値は出てませんけれども、データは過去から延々とございます。そういうことで、どの地区がどういう形で減っているか、何歳の人が減っているのかというのはすぐ出る数字でございます。その分析といいますのも、観念的なことを言いましたら、新興住宅地については、年寄りにとっては住みにくいまちになっているというのは現状です。住みやすいところへ移っていくから。それを、そしたらどないしていくかというのは、施策としては出てきますし、高校までは橋本市でいてたけども、そこから大学、就職になったら外へ出ていかんなんというのも、それは就職の場がない、大学がないということが現状でございます。

そういうことで、原因は分析すればすぐ出

てくることですけども、それに対して施策をどない打っていくかということにつきましては、長期総合計画が10年ですけども、５カ年を前提として動いてますので、５カ年たった段階で見直ししなければならないものは見直していくという形で考えてございますので、その辺についてはご理解願いたいなということで、マクロ的にとらまえての施策は打っていかないかんということで、百五十何人しか雇用生まれるからそれでええんやという考え方ではございませんので、それはご理解願いたいなと。それと、経済効果につきましても、マクロ的なことになってこようかというふうに考えてございます。

○議長（中西峰雄君） １番　岡君。

○１番（岡　弘悟君） まず、一つ誤解があるみたいなので訂正しておきますけども、企業誘致をしたからといって、僕は地元企業がつぶれているという話をしているんじゃないんですよ。企業誘致をして、それで増えた人数だけじゃなくて、自然的に企業がなくなっていく現状の中で雇用が失われているという現実をとらまえた数字で出さないと、真の数字は出てこないんじゃないですかという話をしただけで、企業誘致を何も否定しているわけではないです。

それで、もう一つ、企業誘致は非常に大事なことだと思います。先ほども言いました。それは僕は認識しています。ただ、企業誘致と子育て支援、それだけで今の現状を打開できないから、ほかのことを考えていかなければいけないんじゃないかと思ってこの質問をさせてもうてるんです。

例えば、今、三田市、兵庫県かな。非常に大きなベッドタウンに成長してきましたけども、別段企業誘致をしているわけでもないし、企業があるわけでもないし、大学は多少あるんですけども、僕、ちょっといろいろ三田で、大学が神戸やったんで、三田に住んでいる子に聞いて、何で三田を選んだんかという話も聞いたんですけども、非常にまちとしての区画がしっかりしていて、例えば、自然の調和をめざした都市づくりというスローガンを掲げたら、きっちりと自然と調和をするために各道に独特の木を植えて何々通りとしてるとか、そういったところが非常に住み分けができていて住みやすいと。それはもちろん自然の調和って何なんですかと言われたら、人間、難しいとは思うんやけども、ただ見ていて気持ちがいい、ただそれだけなんですよ。企業があるからとか、都市部に近いからというのももちろん理由はあるとは思うんですけど、確かに、聞いたら大阪に出るにはこっちとあまり変わらないんですよね。三田から出るには。結構不便な、神戸に出るには非常に近いんですけども。

だから、そういった中で、企業誘致というのは大事なことなんやけども、果たして流出とかしてる部分において、企業がないとかいうところだけではないと思うんですよ。企業誘致は重点的にやって、昔から、僕も小さなときから市内に住んでますので、同級生もそうです、働くところがないから、例えば大阪で就職したけども、ただ、支店が変わってしまって名古屋に行ってしまうので、もう通えなくなったとか、そういった事情はよくは聞かれるんですけども、でも、流入する部分については、逆もしかりですよね。こちら近くに越してこられた方が、ほかから移動されるわけですよね。そのときに橋本市を選んでもらえるような施策というんかな。それが企業誘致というのだけではカバーし切れないので、そういった施策も具体的に、今後、先ほど部長にもお答えいただきましたけども、マクロ的な部分じゃなくてミクロ的な部分でやっていかなければ、たとえ10人でも20人でも年間、

流出をとめることはできないんじゃないかと。

例えば、その施策によって10人でも20人でも変われば、10年後に200人、300人変わってくるわけですから、小さいことですけども僕は大事なことだと思うので、今回この質問をさしてもうたんですけども、特に、４番の答弁でも出てきた「時間ゆたかに流れ　くらし潤う創造都市　橋本」、非常にええスローガンやと思うんです。ただ、これに対しても、結局中身は何なんやと思うんですよ。じゃあ、この中身を考えたときに、どういう中身にしたいんですかと。例えば、「時間ゆたかに流れ」というのを、どういう都市づくりで時間を豊かに流れるというのを明確にせんことには、いいスローガンなんやけども、中身がなければただの箱になってしまうと思うんです。失礼な言い方してますけど。

例えば、沖縄で、今離島ではやっているスローライフ、僕、結構離島好きなので行きますけども、確かにスローライフやなと思うんです。本当に時間がゆっくり流れている気もします。それはもちろん人間がつくり出して、ねらったわけではないんですけど、それに合ったスローガンをつけてますよね。でも、「時間ゆたかに流れ　くらし潤う創造都市　橋本」と言われたときに、じゃあ中身は何なんやと、どういう都市をめざしていくんやという趣旨を聞かれたときに、僕、ちょっと想像しにくいんです。これについてもちょっとお聞きしたいんですけども、どういったことをこの中身でねらって、この話をしてるんですかね。それがなかったら、それは正直つくっていかなあかんと思うんです。だから質問させてもらってるんですけども。

○議長（中西峰雄君） 市長。

〔市長（木下善之君）登壇〕

○市長（木下善之君） １番　岡議員の再質問にお答えしたいと思います。

非常にこうした大事な、これはもう市にとって大変重要なことでございまして、いろいろとご意見をいただいておりますこと、まずもって御礼申し上げたいと思います。ありがとうございます。

私もこのことについては、朝な夕な、本当に頭を痛めておるわけでございますが、ちょっとその「時間ゆたか」は後へ回しまして、先ほどからのご質問で、今の答弁やございませんけども、ちょっと二、三感じた点がございます。

流出する最大の原因というのは、これはさまざまやと思うんです。この間、私は心臓痛めたのは、城山台で暑いときでした。木下市長さんよ、私ら今度中の島の37階へ住むようになりましたんやと。えーというような話で、傘の要らんまちに住みたいっちゅうんですよ。城山台は雨降ったら傘が要るわけ。その方はつえついてますんよ。しびしびしてましたから、片一方で傘さしてね。それで中央公園の店で買うたら、買うた物を首へつっていかんなんというんですな。

それで、いろいろとちょっと話したんですが、中の島の37階へ夫婦で陣取らしてもうたんやと。今度そうなると、年いくと車いすになりますので、そうしたら１階、地下は食料品一般、２階は歯科、眼科、小児科、もう皆張り付いて、３階はリハビリ。そういうような大きな組織が、何があったマンションがございましてね。そうして、あいたときに電話しておくれよと歯医者に言ったら、そしたら車いすに乗ってエレベーターで下へおりたらいいわけですな。もう皆日常間に合うわけやな。ほんで、時代の構造というのは大きな変わり方がしとるということを、私、それで目が覚めましてね。歌舞伎やとか、映画に行くでとかいう場合はタクシーを呼んで、下へ来たら案内人が電話くれておりていくと。傘使

わないというようなことを言われましてね。大分ショックを受けました。

そういうことでさまざまだと、さっきからいろいろ話があったように、通勤・通学いろいろとございました。それと、私、昔そちらで議員のときに、どんどんベッドタウンで旗振ってやってきたんですけども、私の知り合いで大阪の会社の方ですが、６組か７組でしたわ。橋本市へ行かしてほしいんだと。ところが没になったという最大の苦い経験が。どないなってきたかというと、青蓮寺湖という三重県にあるでしょう。青蓮寺湖というんですか、名張。名張も大倉建設が膨大に開いたところ。そこもなんべんも私、偵察に行ってきました。それと橋本市と競争です。距離は橋本市の倍ですよ。名張の上の青蓮寺湖のベッドタウン。ところが会社出るとき、これから帰りますと言うたら、５分も違わんと家へちゃんと着くと言うんですよね。橋本市は67の信号を越えていかんなんと。何時に着くかわからんような状態。皆調査したわけです。最大の原因は、南海もそのときは複線化できてませんでした。そこの問題と国道371号の改修。いまだにまだできてない。

そこらの利便性で皆、青蓮寺湖のほうへ大阪の人らが行ったというような苦い経験もありますし、特に、私はあやの台のあそこの案内所へも行って、どういう問題があるのかということを絶えず検討しておるんですが、やはり水道料金のことが、公共料金で水道料金が突発に出るわけや。水いくらですかと。水商売みたいなものですわ。これは橋本市が弱いのでね。私もこれを何とかと今模索したり、段階的に何とか計算式を変えていこうやないかという、夫婦で来た場合に、先に奥さんのほうは水の料金が一番聞くんですよ。学校だとか幼稚園、保育園、それらすべてアクセスや、そういうことも全部調査してくるわけですけども、そういう公共料金というのも非常に大事であるなと。

そして教育レベル、暴力団の問題、これは私も胸張って、橋本市は暴力団が住んでない非常にのどかな心豊かなまちだということを提唱してもうとるんですけども、これはよそとはいいませんけども、そこらのことを思ったら、近隣にもありますけどね。非常にちょっとその辺ましかなと。

これは奥が深い。きょうの話はあしたの朝までせんなんほど、いろいろお互いに思っておる。非常に多くのご意見出していただいていること、本当に感謝申し上げたいと思います。

それともう一つ、岡議員、企業の倒産の話がさっきちょっとありましたわな。倒産とか廃止とか中止とか。これは私も声を大にして申し上げたいと思っておるのは、専売公社、たばこ産業、妻の。これ、最大550人おったんですよ。そこからぽかっと法人税4,700万円入ってきておったんです。そこで皆、市税も皆ずっしり納めてくれた。それを10年計画で廃止しましたわな。これがやっぱり橋本市の最大。ほんで私、企業誘致のことはもうあまりここでは言わんけど、内心はおっつかないかんなと。500人の雇用にね。それがやっぱり最大の、それで均衡とれるわけですよ。ほかにも廃業やたくさんございますけどね。最大の、県下で３番目か４番目ですな、たばこ産業550人。これが痛手であるんで、何とかそれに見合う努力を今後してまいりたいと思ってございます。時間大分とりまして済みません。

○議長（中西峰雄君） 企画部長。

○企画部長（吉田長司君）「時間ゆたかに流れくらし潤う創造都市　橋本」このキャッチフレーズでございますけれども、これは合併の新市まちづくり計画の中で、はじめに出たものでございます。ということで、合併の説明

会のときも言うたなというのをちょっと思い出してございます。

具体的な内容につきましては、新しいものばかり追い求めるのではなく、昔からの古いものを見直して、それを磨いていくまちにしようということで、歴史とか自然も大事にした中で、人間が人間らしいゆったりした中でまちにしていこうという基本理念でございます。

もうちょっと具体的に言ったら時間ないですけども、そういうことで、こういうキャッチフレーズになってございます。

○議長（中西峰雄君） 先ほど保留いたしました答弁を経済部長よりいたさせます。

経済部長。

○経済部長（岡松克行君） 大変失礼しました。

先ほどの倒産・廃業の件数についてでございますけども、橋本商工会議所内で、21年度で11件、高野口町商工会内で15件、計26件の倒産・廃業がございます。ちなみに、県全体では、21年度は166件の倒産・廃業となっております。

よろしくお願いします。

○議長（中西峰雄君） １番　岡君。

○１番（岡　弘悟君） ちょっと長く話しましたけども、確かに。

結局、言いたかったことは、今、企業誘致にしても最初に書かしてもうたんですけども、就職や仕事のつながりがなかったりとか、関係ない方には基本的には関係のない事項になってしまいますので、それを市民全体に対してミクロ的に享受できる施策、これは極論なんですけども、本当に極論の話で、そういった話で一度、大学の同級生と飲んでる席で話をしたことがあるんです。そしたら、その大学の友達が、30年住んでもうたら税金半分にしたらええねんと軽く言うたんですよ。冗談で。これ、でも正直な話、そういう施策もとってみてもおもしろい。それはただ単に、僕はそのときの場で思ったんやけども、そういった感じのピンポイントに全体の人間が享受できるというんかな。それに関係してなかっても、例えば、橋本市に住むことだけで享受できる施策というか、そういったものをもちろん今後、考えていかなければいけないんかなと思って、この質問をさせてもらったんです。

それが今、ある施策の中では一つ一つの部門ではしっかりしてるんやけども、全体的に見たときにぼんやりしていたので、それだけでは人口の流出はとまらないと考えましたので、この質問をさせていただきました。できれば今後、そういったミクロ的な施策というか、ミクロ的と言いながらも、実は全体的に影響を及ぼす施策というのも、今後、長期の計画の中に取り入れてやっていただくことを要望して、この１番目の質問は終わります。

２番目なんですけども、時間がないのでちょっと急ぐんですけども、これ、県の施策とかでは、いろいろそういった施策があるというのはお聞きしているんですけども、市が独自で行っているというのは何か、いくつか教えていただけますか。保存のためというよりは、例えば後継者問題について、どういった施策を市独自で行っているのか。そういったものがあれば教えていただけますか。

○議長（中西峰雄君） 経済部長。

○経済部長（岡松克行君） ただ今のご質問でございますけども、一応、条例の中に「橋本市伝統工芸品の産業活性化支援事業費補助金交付」という形の補助金の交付要綱がございます。これにつきましては、今現在、ご利用していただいているという形にはなっておりませんけども、先に今言わしていただいた、県のほうの補助金を使っていただいた中で、後継者の育成ということに努めてまいりたい

と考えております。

○議長（中西峰雄君）１番　岡君。

○１番（岡　弘悟君）もちろん、県というのは、橋本市の財産は県の財産でもあるべきものですから、それは当然やと思うんですけども、やはり僕が気になるのは、橋本市を紹介するときによくこのフレーズ出てきますよね。もちろん柿とかも出てきます。そういった中で僕が考えたのは、今後この企業で、こういった事業の中で何が問題かというのをちょっと何人かにお聞きしたんですけども、やはり後継者の問題、特に最初に仕事に来てもうたときは、ほぼ仕事ができないというか教えるだけのことになってしまいます。そうすると来ていただいた方、ほとんど収入がないという状態が続きますよね。そのときに、教えている方がある程度の援助をされて、県からも援助もしてやってるんやけども、やはり後継者を育てていくには育てにくい環境というのは、どうしても否めないところがあるというお話はちょこちょこ聞きましたのでね。

前に議会で、もう数年前になりますけども同僚議員が、市営住宅のあきを使って住む方法もどうかという提案もされたことあったんですけども、それはそのときに規定があったりとか、収入の問題があったりとか、もちろん市営住宅はその目的のための用途に使われていない等の理由があって、それは実現しなかったんですけども、例えば、今ある空き家とか、そういったものを利用して住んでいただくという方法はとれないものかなと思いまして。そうすることによって、ある程度の生活する基本である家賃というものが、大分軽減されるとは思うんですけども、それをどこのラインで、どの伝統産業、どれに位置付けるんやという難しい問題があるのはわかるんですけども、今後それを考えていかないことには、橋本市に残る伝統産業がすべてこけてしまうということになりかねませんのでね。今後、ある程度行政で伝統あるものはこれやというのを位置付けて、残していくための施策というのは打っていかなあかんとは思うんですけども、その辺のお考えはいかがですか。

何点か言い過ぎたので整理します。今後、その位置付けていくというのをするのかということと、あと、そういった空き家を利用できるかという、この２点についてお答えお願いします。

○議長（中西峰雄君）経済部長。

○経済部長（岡松克行君）ただ今のご質問にお答えさせていただきたいと思います。

まず、空き家についての、例えばお弟子さんとか、それをとったときに空き家をどうして活用して、家賃的なものも含めて負担を減らしていけないかという、多分ご質問かと思われます。それにつきましては、先ほども申し上げました伝統工芸品の後継者の育成支援事業、これはお弟子さん１人につき５万円ございます。これについて、３カ年の補助はございますので、それを活用していただいている組織もございます。

それと、今おただしの空き家の対策ですけども、確かに橋本市、過疎地の、過疎地というたら語弊がありますけども、山間部であいている空き家も何軒かございます。そこにつきましては、今言われた伝統工芸品の団体の方にも話を聞きました。その中で、ここらどうかなという話もいろいろ模索をしたんですけども、その空き家について、金額的なものも、貸していただけるか、まずそこが第一になってこようかと思いますけども、金額的なものも普通の一軒家でございましたら、古くても結構お金が要るという中で、対策的にはかなり難しい問題と思いますけども、また関係者と話をしながら進めていきたいと考えております。

それと、この後継者問題の位置付けにつきましては、橋本市で伝統工芸品と言われるやつにつきましては、先ほどからご質問のとおり、へら竿、繊維組合のパイル、そして本年10月に県知事指定を受けました池田建具店さんと何件かございます。そこらにつきまして、後継者の問題をどうしていくか、これは大変大きな問題と思います。伝統を受け継ぎまして後世に残していくには、技術を承継する人づくり、これがもっとも重要と考えております。本市としましても、その点を踏まえた中で各関係者と協議し、積極的に支援をしていきたいと考えております。

よろしくお願いします。

○議長（中西峰雄君） １番　岡君。

○１番（岡　弘悟君） 内容はわかるんですけども、僕が言いたいのは、部長の答弁でもいただきましたけども、結局、金銭的な援助というのではなくて、やはり残していくための環境づくり、橋本市として、その文化を残していくための環境をどのようにつくっていったらいいのかというのを今後考えていきたいし、考えていってもらいたいというのが実際あるんです。環境というのはお金では買えないですよね。やはりその市がそれを守ろうとするときに、どういったふうに守っていこうという確固たる信念がないとその環境はつくれないと思いますので、今後、こういった伝統産業が橋本市においては非常に大事になってくると思いますので、その環境づくりというのに重点を置いて、今後またその施策、会議を行っていただけたらいいかなと思いますので、これは要望にしておきますので、また金銭的なことだけではなくて、そういった生活環境、そして今後それを取り巻く、何て言うんですか、言うても親元を離れて若い世代からこっちに来てますので、いろんな悩みもありますし、そういった悩みの相談等も含めて、そういった環境づくりを本市も行っていただきたいと要望いたしまして、私の一般質問を終わります。

○議長（中西峰雄君） これをもって、１番　岡の一般質問は終わりました。